

よく遊び じっくり学び 正しく選ぶ 子



縁小だより

1月号

令和8年1月7日（水）

茅ヶ崎市立縁が浜小学校
校長 菅野康一

【丙午（ひのえ・うま）】

新年、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。昨年を振り返ると、いつまでも続く猛暑、辺り一面を焼き尽くす恐ろしい山火事、人を怖がらない熊による過去最大級の熊被害、そして先日の北海道・三陸沖地震と、それに伴う後発地震注意情報という聞きなれない言葉がニュースで報じられていました。

昨年度は“もしも”的に、一つしかない大切な命を守る日頃の備えが常に必要だと感じる1年でした。

縁が浜小学区は海も近く、7月30日には津波警報が発令されて多くの地域の方々が学校に避難をされてきました。茅ヶ崎市は南海トラフ地震エリアにも入っていますので、いつ何時自然災害に見舞われるかもしれません。新しく迎える年は、安心して毎日が穏やかに過ごせるよう、心より祈っております。

さて、今年の干支は『午』。2026年は、十干の「丙（ひのえ）」と十二支の「午（うま）」が組み合わさった「丙午（ひのえ・うま）」です。丙（ひのえ）は、十干の3番目で「火」の要素を持ち、太陽や明るさ、生命のエネルギーを表すとされています。また

午（うま）は、古くから人間とともに生きてきた動物。駿足を持ち、独立心が強く、また人を助けてくれる存在でもあります。そのため丙午（ひのえうま）の年は、「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」年になると考えられます。しかし、すべての人が同じペースで結果を得られるわけではありません。成長の速度は人それぞれであり、中には時間がかかる人もいます。そのため、2026年も辛抱強さが試される年にもなります。すぐに結果が出なくても、焦らず粘り強く取り組む姿勢が重要です。自分のペースを保ちながら着実に前進することで、最終的には望む結果に近づくことができます。

縁が浜小学校の一年間も、子どもたち一人ひとりが粘り強く物事に取り組む姿勢を大切にしていってほしいと思います。

さて後期後半開始の全校集会で、毎年「一月往める二月逃げる三月去る」の慣用句から『一月は行く、二月は逃げる、三月は去る』ということを毎回お話ししています。これは、正月から三月までは行事が多く、あっという間に過ぎてしまうことを表現しています。一月の年始というものは

誰にとっても忙しいもので、1日の元日から始まって初詣、年始参り、七草がゆ、鏡開き、小正月などの年始行事が続き、登校日も少ない事から、今年も1ヶ月あつという間に過ぎたと感じます。二月は他の月に比べ、日数が少ないのが特徴で（今年は28日）、節分、立春、建国記念日、天皇誕生日などがあり、一年で最も短い月なので、逃げる様に二月は終わってしまうと表現されます。そして、三月はひな祭り、彼岸、春分などがある一方で、卒業や移動が多く忙しい月で、気がつくと四月！とならないよう、6年生は49日間、5年生は52日間、1～4年生は51日間を「**いかさず・にがさず・さらせず**」しっかりとつかまえられるよう、職員一同改めて気を引き締め、子どもたちと取り組みます！

6年生の廊下には「**墨の達人**」と題して、最上級生らしい素晴らしい作品が掲示されておりました。墨は日本が世界に誇るべき素晴らしい文化です。

今年一年間が素晴らしい年になりますよう、新年の初めにあたりこの作品たちをご紹介します！！

